

【BSY 案内 1】

野村謙二郎 CUP・第11回西日本中学野球大会 (参加チーム確認用)

- 大会名 野村謙二郎 CUP・第11回西日本中学野球大会
- 主 催 広島県 B・S・Y 中学野球連合会
- 後 援 広島東洋カープ 広島県 広島市 広島市教育委員会 他
- 協 賛 ミズノ株式会社広島営業所
- 開催日 2019年11月30日(土)・12月1日(日)・7日(土)・予備日8日(日)
- 会 場 広島市民球場(MAZDA zoom-zoom スタジアム広島) 他
- 参 加 ボーイズ(11チーム) リトルシニア(11チーム) ヤング(10チーム)
- 選手登録 1チーム11名～20名以内(中学1年・2年生)
(広島県 B・S・Y 中学野球連合会加盟チームは連合チーム参加可能)
- 開会式 2019年11月30日(土) 広島市民球場(MAZDA zoom-zoom スタジアム広島)
7:30集合(団旗・プラカード持参の上、アップシューズを履く)
- その他
- 参加金 3万円
 - 初日の敗者チームは二日目の交流戦へ参加すること。
 - 弁当代金は2日分、初日の受付で支払う。
 - 初日の審判は、各リーグ審判部(主会場および3試合会場4名・2試合会場3名)とチーム帶同審判員(墨審)で行う。二日目の交流戦については対戦チーム同士が球審・墨審を出し合う。
 - 開会式前の集合写真(登録選手・登録外同じユニフォーム着用選手)撮影し、各チームのマネージャーは必ず開会式前集合場所に選手を引率し、入場行進まで見守る。
 - 参加チームが大会について確認事項がある場合は、所属リーグの担当者へ連絡する。(BSY会議→大会事務局→各リーグ役員→チーム担当者)
 - 遠征チームの宿泊場所は各リーグで把握しておくこと。
※舗装してある場所のスパイクでの通行。試合前のアップ～キャッチボールまではアップシューズで行い、ノックは芝の上からは行わない。
 - チームは試合会場到着後、代表が本部席へ行き、到着報告をする。
試合後、会場から移動する時も、代表からチームが移動する旨を伝える。
 - 大会運営上、決定事項に変更があった場合は、それを遵守する。

大会約款（大会特別規定）

本大会は、少年野球団体が他団体と交流することにより、少年野球の発展に寄与することを目的とする。上記目的に賛同する団体は、主催者と各団体代表者による実行委員会の承認をもって、出場することができる。大会運営にあたり、下記の大会特別規定を定める。

大会運営に関する特別規定

1. 本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たすものとする。ただし、本大会の参加資格は、2019年10月末日の時点で各所属団体に登録を完了したチーム（監督、コーチ及び選手）とする。
2. チームは、単独および連合チームとし、11名以上、20名以内の選手で編成し、ベンチに入る責任者、監督、コーチ（スコアラーを含む）は4名までとする。登録名簿変更の場合は大会当日、変更後の名簿を5部本部席へ提出し、承認を得る。
3. 選手、監督、コーチ（マネージャー、スコアラーは除く）は同一ユニフォームを着用すること。なお、背番号は所属団体の規定に従う。
4. 各チームは必ず成人である引率者が、大会中（集合日から解散まで）、選手の行動ならびに観客席での応援などに対して責任を負うこと。
5. ゴミは球場施設内に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手、保護者にも徹底すること。
6. 大会中の負傷または疾病に対して主催者は責を負わない。

競技に関する特別規則

- ① 各チームの監督と主将は試合開始時刻40分前、または前試合4回終了後（コールドゲームのときは試合終了次第）所定のメンバー表を競技委員に提出し、同時に審判員立会いのもとで攻守の順を決める。なお、この際、所定の投球回数申告用紙（投手ごとに前試合およびまたは前日までの投球回数を記載）も併せて提出すること。
また、大会本部は提出されたメンバー表と登録原簿の照合を行うとともに、試合開始前に用具の点検も行う。
- ② 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。
(4回表を終わった際、または4回裏の途中で打ち切りを命じられた試合で、後攻チームの得点が先攻チームの得点より多いとき)
試合成立後に、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は最終回時点でお出場していたメンバー全員の抽選とする。
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、大会本部が指定した日時、場所で、再試合とする。
- ③ 4回終了時10点差以上の場合及び5回以降終了時7点差以上の場合はコールドゲームとする。(ただし決勝戦にはコールドゲームを適用しない)
- ④ 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長10回あるいは試合開始から1時間50分を超えて(どちらか早い方)新しいイニングには入らず最終回のメンバー全員の抽選とする。
- ⑤ 投手の投球回数に関しては、「中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン」に基づくものとする。
【中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン】
1日7イニング以内とし、連続する2日間で10イニング以内とする。また、1日に複数試合に登板した投手及び連続する2日間で合計5イニングを超えた投手（5イニングは可）は、翌日に投手または捕手として試合に出場することはできないものとする。ただし、イニングの端数（0/3・1/3および2/3）は1イニングとみなす。
- ⑥ 選手が打席に入る時は、必ず両耳つきヘルメットをかぶること（次打者を含む）。また、走者も危険防止のため必ず着用すること。なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること。（練習時も含む）

- ⑦ 特別代走を認める。これは、特別な事情（死球による負傷など）により、一時的に休めば試合に出場できると審判員が判断したときに限り適用できる。この場合、その打者の最も近い打撃の完了した選手（投手を除く）を特別代走者とする。
 - ⑧ 本大会では、金属バットならびに金属と他の材質との接合バットの使用を認める。
 - ⑨ 監督（コーチ）が一試合（7イニング）に投手のもとへ行ける回数を2回までとする（投手を交代させた場合は回数として数えない）。監督（コーチ）が2度投手のもとへ行った後、3度目以降に行けば、そのときの投手は自動的に交代しなければならない。この場合、他の守備につくことはできるが、その試合で投手に戻ることはできない。
また、監督（コーチ）が投手のもとへ行った場合を除き、守備側のタイムは1試合（7イニング）につき2回までとする。（捕手は除く）
攻撃側のタイムは1試合（7イニング）につき2回までとする。
- 延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、
監督（コーチ）が投手のもとへ行ける回数は3イニングにつき1度とする。
守備側のタイムは3イニングにつき1回とする。
攻撃側のタイムは3イニングにつき1回とする。
- ⑩ 監督またはコーチが同一投手のもとへ行くことに関して1イニング2度行けば、投手交代することとするが、野球規則5.10(l)にもかかわらず、他の守備につくことができる。ただし、その試合の投手に戻ることはできない。
 - ⑪ 規則5.10(d)【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。
 - ⑫ 故意四球の申告制を採用する。野球規則5.05(b)(1)細則参照
 - ⑬ その他特に定めのない限り、公認野球規則を適用する。

大会特別規定・補則

1. 球場に到着したチームは、速やかに本部にその旨を報告し、メンバー表を受け取ること。
 2. ベンチは組み合わせ表の若番のチームを1塁側とする。
 3. グランドインから試合終了まで、責任者、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチに入ることができない。
 4. グランドインしたチームは競技委員の指示のもとに、速やかに試合前の練習を行うこと。グランドルールがある場合はそれに従うこと。
 5. 原則として、試合前のシートノックは行わないが、行う場合（5分間）は事前にチームへ伝える。
 6. 試合をスピードイーに行うため以下の項目を守ること。
 - A 攻守交代時守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング（円陣）には加わらず、所定の位置に速やかにつくこと。
 - B 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球し、これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につき、捕手からのサインを受けること。
 - C 打者はみだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえタイムを要求しても審判員がタイムを宣告しないときはインプレイとする。
 - D 次打者は必ずネクスト・バッターサークルに入り待機すること。※各団体の規定で行っても差支えない。
 - E 捕手は、投手に返球したり、野手に声をかけるために、一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
 7. コーチボックスには監督、コーチ、選手いずれかが入る。必ずヘルメットを着用すること。（選手は両耳ヘルメットを着用）
 8. 規則6.04に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー、マネージャー等いずれも相手選手を惑わすような行動をとってはならない。
 9. 手袋、リストバンド、リストガード、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合、これらの着脱のためだけのタイムは認められない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの着脱のためのタイムを認める。（速やかにベースコーチがとりにいくこと）
 10. サングラスは、日よけ防止のため野手のみ身につけることができる。ただし、ミラーレンズ、ガラスレンズは禁止とする。また首輪（リング）については、ユニフォームの上から見えないように身につけるべきものとし、露見するものは禁止する。
- 1 1. 試合中、次の試合のチームはグランド内での投球練習は、打球監視員を必ず設置して4回終了以降1組のバッテリーを認める。
 - 1 2. バットボーイ・ボールボーイ、シートノック補助員は登録選手以外でも良いが、両耳ヘルメットを着用する。SGマークのついていない用具（特にフェイスガード付きヘルメット）は使用しない。
 - 1 3. 審判の担当については、大会本部により決定する。
 - 1 4. 試合球については、本大会指定の試合球を使用する。
 - 1 5. 各球場内の諸行動については、多くの利用制限事項があるため、役員の指示を厳守すること。役員関係者は表示携帯を義務付ける。

野村謙二郎CUP・第11回西日本中学野球大会
確認事項（要点のみ）

【開会式 監督・コーチの整列】

- ・開会式前、監督・コーチ（1名）は一塁側に入場行進順にて整列する。
- ・入場行進中チーム紹介されたら、監督は前に出て一礼をする。
- ・各チームの代表者はバックネット前に整列する。

【試合について】

- ・試合用のメンバー表は試合会場の本部席で受け取る。
- ・メンバー表（9名のみ記載）交換時には、主将と指導者1名が参加し、投手投球回数の確認を行い、相手の登録名簿を受け取る。
- ・試合開始前の選手挨拶には監督も参加し握手する。
- ・投手の投球回数は統一ガイドラインによる。
勝利チームのマネージャーは試合終了後直ちに、自チームの投手登板回数の報告を書面（B・S・Y様式）にて球場責任者へ提出する。
- ・監督・コーチがマウンドに行くときは、駆け足で行う。
- ・コーチボックスには監督・コーチ・選手いずれが位置しても差し支えないがヘルメット使用を義務付ける。
- ・抽選方法は、球審の決定による。

【審判について】

- ・1試合各リーグ審判員が2名、墨審2名はチーム帶同審判員（審判服着用）で行う。（最終日は各リーグ審判員のみで行う）
- ・球場責任審判員により試合中審判員の配置を決めるが、チーム帶同審判員の状況を考慮し、自チーム試合か他チーム試合の審判を行うか決定する。
- ・2試合目以降のチーム審判員が、責任審判員不在時に審判室（本部席）に到着した場合は、球場責任者が説明出来るよう、球場責任者と責任審判員は打合せを行っておく。

【その他】

- ・初日敗者チームの二日目交流戦については、初日全試合終了後、大会本部にて調整し各チームの代表者へ連絡する。
- ・場内放送は対戦チームで行う。※マツダスタジアムは別途依頼
- ・開会式前の集合写真は、同一ユニフォームを着用していたら人数制限なし。開会式は登録選手のみ参加する。
- ・ベンチ入りは、代表（当日の責任者・監督・コーチ・マネージャー）4名までとする。
- ・時間的にシートノックは行わないで、ベンチ前サイドノックのみとする。
シートノックを行うときは、チーム責任者へ別途連絡する。
- ・階段状になっているスタンドには簡易テントを設置しない。
- ・次の球場は弁当殻回収不可能につき自チームで処理する。

D絆（キズナ）スタジアム